

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：西部公民館

2. 日 時：令和7年7月12日 10:00~11:00

3. 参加人数：24名（教育委員会除く）

4. 主な質疑

■参加者

1点目、例えば中学校に入って制服等を準備して、3年生になったら統合してまた新しい制服になると、経済面で負担がかなりあるのでそのあたりはどうか。

もう1点、移行期間の令和7年からでは、一定の間に例えば校舎の移動があって、学校生活に支障が出るようなことが起こるのか。要は学校の位置が変わるので、今はここで過ごして12年からそこに行く形になるのか、行ったり来たりになるのか。

□教育委員会

1点目、計画期間中に3年生になって、制服が変わった場合どうかということですが、地域で統合するという合意形成について、まず説明をさせていただいて、意見交換の中で地域と合意を図っていく形。やり方は今までの統合のパターンでいうと、いろいろなやり方があった。その中でも、協議会の形式を取って、その協議会の中で合意するということが多かった。

次に開校に向けての準備について、これまでも準備委員会という形のものを作って、その中で、学校名、校歌、制服等の指定用品をどうするかということになるので、PTA、学校、地域と話をさせていただき準備をする。学校名や制服が変わることがあるが、今までの事例でいうと、そのままでよいパターンが多い。保護者の意見を聞きながら、移行についてどうやっていくべきかを考えていく。

すでにある学校に登校するパターン、新しい場所に登校するパターンで違うかと思う。その状況に応じて、こういった配慮が必要か、こういった移行をするかは、個別具体的に検討していきながら、開校まで準備にあたっていく。細かく状況を伺いながら、一番は子供に負担のかからないやり方をともに考えながら決めていく。話し合いをしながら進めていくことになる。

質問の2であった工事があった場合の話は、小学校が小学校に移る場合は、特段の大きな性能の違いではないので、普通に小学校を使うが、9年4月から玄洋中学校に中学校校舎を使って小学校が来る場合は、小学校が使えるような形の改修が入る。その場合は、中学校が授業を受けながら、工事をするということで、全く支障がないわけではないが、大きな音が出るような工事については、夏休み、春休みを使って工事をする。

既存の小学校中学校は、長寿命化計画もあって、あるものについては使いたいという考え方だが、今回の計画の中では、中長期的に言うと、新しい校舎を建てるというのも1つの選択肢ではないかという形で少し舵を切っている。それで、A学校とB学校が新しい学校をつくる場合であれば、工事をここでしての間は、A学校B学校がそのまま授業、できたらそこに移る工事のやり方も1つの手法。できるだけ、子供たちに迷惑をかけないように進めていきたい。

■参加者

桜山小学校は関西小学校が来る。中学校は神田小学校の所に向洋中学校、文洋中学校なので、そこまで影響はないと考えてよいか。(わかりました。)

1点目のお話で大体理解できたが、統合の前に新しい制服に変わることがあるか。

□教育委員会

新しい制服は統合後で考えられると思うので、統合前から変わるというのは基本的にはない。移行期間は、これまでの例では、急いでも準備には2年かかる。買い替えの需要も出てくると思うが、負担に関して配慮していかないといけない。制服のルールも話し合いの中で決めていく。

■参加者

3年前の3期計画では、関西小学校、桜山小学校、向山小学校、向洋中学校、文洋中学校を小中一貫教育に向けて、神田小学校のところにという計画が示された。今回、その前の計画に変更になっていると思うが理由は何か。

□教育委員会

3年前、施設一体型の小中一貫を提案し、その中で地域のご意見をいただいた。大規模な統合になると、小学校低学年の通学が保護者は不安とのこと。4期計画で重視したのは、適正規模を図るのに、対象校を令和12年度の推計値でクラス数が12学級よりも少なくなる学校を検討対象校とした。その中でも特に規模が小さくなっている学校を優先対象校として、小学校・中学校とも5学級

以下の学校については優先的に取り組むべきと考えている。小学校で5学級以下は、1学年1クラスの編成ができない複式学級が必ずあって、そういった極端に少なくなっている学校については、急いで統合、適正規模化を図ったほうがよいというのが今回の基本計画である。関西小がかなり少なくなっていて、どの学年も単学級を組めなくなっているの、これを優先的に解消していくべきというところ。一方、向山小は令和12年でも8クラスで、優先対象校にならないので、4期計画の優先して考えるかどうかというところ。これはこの地域だけでの考えではなく、市内全体で優先対象として、適正規模化を図ることを重視したことが今回変わったもの。その結果、既存計画の見直しで、3小2中で1つの学校を計画したが、多くの意見をいただいたので、特に小規模になった学校を優先的に取り組んでいくということ、重視したというのが理由になる。

■参加者

当初小中一貫の話があったが、今回は小中を分けた。12年度の統合後の小学校の予想数を見ても、適正より低いのではないかな。これからまた何年後、さらに少なくなる可能性がある。せっかく統廃合したが、また次も統廃合の対象になるのではないかなと思う。そうしたときに、せっかく小中一貫を神田小学校の所に新しい校舎を建てるということであるため、小学校まで含めた統廃合ができるような計画、また他の小学校と一緒にするのもいいが、距離もかなり遠くなるので、小中学校の方が可能性としては高いのかなと思うがどうか。

□教育委員会

先々を見越せば、前計画のような1つの小学校、中学校という考えは選択肢として十分ある。3期計画ではそういう提案をしたが、今回重視したのは特に小規模になった学校について、早めに対応しないといけないというのが考え方である。先々を見越したときにどうするかは大きな課題。今後、適正規模化を図っていくためには問題だが、地域で意見交換をする機会は設けたい。その中で議論するべき。教育委員会の考えは、数字を固めて小規模校を統合することだけを考えているのではなく、地域には学校は必要であることは基本的な考え方。

豊北町には小学校が8校あったが、1校になった。豊北町の昔の行政区の中に、小学校が1つになって今でも少子化が進んでいる状況だが、ひとつになった豊北小学校を、隣の豊田町の西市小学校と統合する議論があるかということ、そこまで小学校の校区が広いことは考えられない。地域の中での学校というのは最終的にはもっていないといけない。その許容範囲がどのぐらいのエリアかという議論が今後必要にはなってくる。

■参加者

統合時期について、中学校は校舎を建てないといけけないので時間はかかるが、小学校の統合の予定、計画の時期はどれくらいか。

□教育委員会

統合に関して保護者、地域との合意まで何度も意見交換していくことになる。統合で決まったとして、そこから統合に向けた準備に入る。指定用品をどうするか、施設の改修工事も想定はしないといけけない。今までの事例でいうと、少なくとも2年程度かかる。協議によりそれよりも長くかかることもある。

■参加者（回答は不要）

今日の参加者はOB、OGがたくさんいると思う。自分も息子が桜山小、文洋中。自分も神田小、文洋中の卒業生。母校がなくなるということで心情もわかるが、現役の子育て世代からすると、子供たちの今から5年後10年後のことを考えると、文洋校区の統廃合は自然なのかなという気がする。通学をどうするのか、学校をどういうふうに子供たちの適性に合わせて作っていくのか、経済的なところも含めて、前向きに考えていく方が当然と思う。実際、人数を見ると、関西小桜山小全体でも1クラスしかできない。9年間ずっと1クラスと考えると、なかなか集団生活に対して教育をどうしていくかを考えていかなければならないと思う。旧市内の高齢化が進んでいる中で、5年後10年後の今の子供たちがいかに快適に教育を受けられるかを皆で一生懸命考えていく。個人的には賛成。

■参加者

令和12年に統合ではないのか。11年まで準備期間で、令和12年に統合ではないのか。

□教育委員会

適正規模・適正配置の計画期間が5年間という説明をしたので、そのような受けとめをされたと思う。今回、4期計画で、一番最初の計画は平成21年度、第1期計画は6年計画で、その後は5年計画できている。

こちらの地域の学校は、当時から小規模校という課題が出ていたため、その当時から提案をしている。地元の合意がなければ実施しないというのが教育委員会の考えのため、この地域の統合については、この間、神田小学校が数年前に統合になった。もともとは関西小も考えていたが、まずは神田小を実施した。

基本的には5年ごとに改めて検討していく。何か個別の事案があれば、その都度見直していく。このまま直ちに実施するものではない。5年間の間に統合に向

けて取り組んでいく。合意ができなければ、こちらが強制的に実施するという
ことはない。合意して準備ができた所から実施することになる。

■参加者

令和 12 年より前になることはあるのか。そうしたらちょっと変わってくる。

□教育委員会

5 年後に実施をするという性質のものではない。合意をしたらいつ開校する
のかも地元と協議することになる。こちらが一方的に決めるわけではい。急い
でもこれぐらい時間がかかるということは伝える。急いでやるのか、しっかり時間
をかけて準備をするのか、そこを考えて決めていく形になるので、5 年後より前
になることは十分ありえる。

■参加者（回答は不要）

児童の将来の推計を見れば、こういう計画は教育委員会としてはやらざるを
えない方向性だと思うが、実際にこのあたりは下関駅周辺地域で、再構築しよう
ということで都市整備部が今年から駅前リニューアルの推進を計画の中で出し
ている。

計画では市営住宅を再編する形で、13、14 棟あるのを集約して、そうなる
と空き地も出てくる。そこに例えばマンションやアパートを建てたりしていこ
うという反面で、今の人口だけでその辺をバサッとやってしまうと、将来になっ
て学校が意外と遠いという形になってもいけないので、その辺をしっかりと考え
た中で進めておかないと、都市計画と学校の部分というのが全く一致しないよ
うなまちづくりを進めてしまうことになる。

現に安岡は、もともと大きな学校ではなかったので、そこにあれだけ住宅が密
集すると教室が足りないような状況が発生すると思う。そういったことを踏ま
えれば、今の子供たちだけのニーズを考えていくのも大切で、今学んでる子供た
ちの教育環境も大事だと思うが、将来のまちをつくっていくときに、学校はコミ
ュニティにとって非常に重要な施設だと思うので、その辺をしっかりと考えた中
で、今後計画を進めていくと思うが、しっかりと考えて進めていただければ
と思う。

■参加者

地域、保護者の合意で最終的に統合を決めますという、その合意の形、どこまでの皆さんの合意が取れたら始めるというのがあれば教えてほしい。

□教育委員会

統合については、多数決をとったり、1件1件聞いていくやり方は行っておらず、話し合いの中で確認していく。

最終的な決定に関しては、下関市立の学校は、条例で学校がどの位置にある等、全部決まっている。統廃合があるということは、学校が1つなくなるので、条例を改正しなければならない。条例の改正については、市議会に諮ることになるので、最終的には、そこで市として決定する。市議会では、条例とか予算とかは議会の過半数で決定しているが、学校のような大事な施設がなくなることに関しては、3分の2の賛成がないと決定できない。これは、いわゆる決定の部分。

地元の合意に関しては、このやり方でやりますことというのが必ずしもあるわけではない。こういったやり方がいいんじゃないでしょうか、過去はこういうやり方でやってますよという案内はしている。話し合いが進めやすいので、協議会形式をとる地域が多かった。例えば、PTA、自治会、学校運営協議会、まちづくり協議会、そういう関係者の参加を得て協議をした上で、協議会として意思表示をしていただく。協議会の会長さんから、学校統合に同意しますというような書面をいただくやり方がやりやすいのではないかな。